**〈事業報告書等提出書の様式〉**

**別記第５号様式の３（第２条関係）**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　月　　日

　　倶知安町長　様

　　　　　　　　　　　　　　　　特定非営利活動法人の名称

　　　　　　　　　　　　　　　　代表者の氏名

　　　　　　　　　　　　　　　　電話番号

事　業　報　告　書　等　提　出　書

　　次に掲げる前事業年度（　　年　　月　　日から　　年　　月　　日まで）の事業報告書等について、特定非営利活動促進法第29条（第52条第１項の規定により読み替えて適用する同法第29条・第62条において準用する同法第52条第１項の規定により読み替えて適用する同法第29条）の規定により、提出します。

記

　　１　前事業年度の事業報告書

　　２　前事業年度の活動計算書

　　３　前事業年度の貸借対照表

　　４　前事業年度の財産目録

　　５　前事業年度の年間役員名簿

　　６　前事業年度の末日における社員のうち10人以上の者の氏名（法人にあっては、その名称及び代表者の氏名）及び住所又は居所を記載した書面

（備考）

　　１　特定非営利活動に係る事業のほか、その他の事業を行う場合には、活動計算書を一つの書類の中で別欄表示し、また、その他の事業を実施していない場合は脚注においてその旨を記載するか、その他の事業の欄全てに「ゼロ」を記載すること。

２　上記５の書類は、前事業年度において役員であったことがある者全員の氏名及び住所又は居所並びにこれらの者についての前事業年度における報酬の有無を記載した名簿とすること。

　　　３　この提出書による事業報告書等の提出に併せて、閲覧及び謄写の用に供する書類として上記１から６までの書類の写し〔各２部〕を添付すること（特定非営利活動促進法施行条例第12条第１項の表の第６号）。ただし、条例第25条第１項の規定により非所轄法人が提出する場合は、当該写しの添付を要しない。

４　２以上の都道府県の区域内に事務所を設置する認定特定非営利活動法人又は特例認定特定非営利活動法人が法第52条第１項（法第62条において準用する場合を含む。）の規定に基づき、知事以外の関係知事に

提出する場合には、提出先の各都府県が定めるところによること。

（日本産業規格　Ａ４）

**（書式例）**

前事業年度の自至年月日を記載する

○○年度事業報告書

　　年　　月　　日から　　年　　月　　日まで

特定非営利活動法人　○○○○

１　事業の成果

事業費の金額の合計は活動計算書の事業費計と一致。

 　***本年度は、○○事業に重点を置いて、*……*を行い、*……*に寄与することに取り組んだ。***

２　事業の実施に関する事項

　(1) 特定非営利活動に係る事業

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 定款の事業名 | 事　業　内　容 | 実施月日 | 実施場所 | 従事者の人数 | 受益対象者の範囲及び人数 | 事業費の金額（千円） |
| ***○○事業*** | **……*のために、*……*に対し、*……*を行う*** | ***○月○日*** | ***○○市******（*××*会館）*** | ***○人*** | ***○○市及びその周辺地域の住民******約○○人*** | ***○○千円*** |
| ***○○事業*** | **……*のために、*……*に対し、*……*を行う*** | ***○月○日*** | ***○○市******（*××*会館）*** | ***○人*** | ***○○市及びその周辺地域の住民******約○○人*** | ***○○千円*** |
| ***○○事業*** | **……*のために、*……*に対し、*……*を行う*** | ***通　年*** | ***○○市*** | ***○人*** | ***○○市及びその周辺地域の住民******約○○人*** | ***○○千円*** |

　(2) その他の事業

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 定款の事業名 | 事　業　内　容 | 実施月日 | 実施場所 | 従事者の人数 | 事業費の金額（千円） |
| ***物品の販売・斡旋*** | **……*に関する書物を出版し、販売する。*** | ***年１回******○月*** | ***○○市内の書店*** | ***○人*** | ***○○千円*** |

（備考）

１　用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

２　２は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。

３　２の(1)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施月日、実施場所、従事者の人数、受益対象者の範囲及び人数並びに事業費の金額をそれぞれ記載する。

４　２の(1)のうち「受益対象者の範囲及び人数」の欄には、具体的な受益対象者及び人数を記載する。

５　２の(2)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施月日、実施場所、従事者の人数及び事業費の金額をそれぞれ記載する。定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合は、当該事業年度に実施しなかった場合も「実施しなかった」旨を記載する。

６　事業費の金額は、活動計算書の事業費との整合性を図る。

前事業年度の自至年月日を記載する

**（書式例）**

　**１　定款にその他の事業を掲げていない場合又はその他の事業を実施しなかった場合**

○○年度　活動計算書

前事業年度の自至年月日を記載する

　　年　　月　　日から　　年　　月　　日まで

特定非営利活動法人○○○○

|  |  |
| --- | --- |
| 科目 | 金額（単位：円） |
| Ⅰ　経常収益 |  |  |  |
| 　　１　受取会費 |  |  |  |
| 　　　　正会員受取会費 | ×××　　　×××××× |  |  |
| 　　　　賛助会員受取会費施設等評価費用も併せて計上（計上は法人の任意） |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |
| 　　２　受取寄附金 |  |  |  |
| 　　　　受取寄附金 | ××× |  |  |
| 　　　　施設等受入評価益 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× | ××× |  |
| 　　３　受取助成金等 |  |  |  |
| 　　　　受取民間助成金 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× | ××× |  |
| 　　４　事業収益 |  |  |  |
| 　　　　○○事業収益 | ××× | ××× |  |
| 　　５　その他収益 |  |  |  |
| 　　　　受取利息 | ××× |  |  |
| 　　　　雑収益人件費とその他経費に分けた上で、支出の形態別に内訳を記載 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× | ××× |  |
| 　　経常収益計 |  |  | ××× |
| Ⅱ　経常費用 |  |  |  |
| 　　１　事業費 |  |  |  |
| 　　　 (1) 人件費 |  |  |  |
| 　　　　　　給料手当 | ××× |  |  |
| 　　　　　　法定福利費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　退職給付費用 | ××× |  |  |
| 　　　　　　福利厚生費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　　　人件費計施設等受入評価益も併せて計上（計上は法人の任意） | ××× |  |  |
| 　　　　(2) その他経費 |  |  |  |
| 　　　　　　会議費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　旅費交通費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　施設等評価費用 | ××× |  |  |
| 　　　　　　減価償却費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　支払利息 | ××× |  |  |
| 　　　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　　　その他経費計人件費とその他経費に分けた上で、支出の形態別に内訳を記載 | ××× |  |  |
| 　　　　事業費計 |  | ××× |  |
| 　　２　管理費 |  |  |  |
| 　　　 (1) 人件費 |  |  |  |
| 　　　　　　役員報酬 | ××× |  |  |
| 　　　　　　給料手当 | ××× |  |  |
| 　　　　　　法定福利費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　退職給付費用 | ××× |  |  |
| 　　　　　　福利厚生費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　　　人件費計 | ××× |  |  |
| 　　　　(2) その他経費 |  |  |  |
| 　　　　　　会議費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　旅費交通費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　減価償却費 | ××× |  |  |
| 　　　　　　支払利息 | ××× |  |  |
| 　　　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　　　その他経費計 | ××× |  |  |
| 　　　　管理費計 |  | ××× |  |
| 　　経常費用計 |  |  | ××× |
| 　　　　当期経常増減額 |  |  | ××× |
| Ⅲ　経常外収益 |  |  |  |
| 　　１　固定資産売却益 |  | ××× |  |
| 　　　　・・・・・・・・ |  | ××× |  |
| 　　経常外収益計 |  |  | ××× |
| Ⅳ　経常外費用 |  |  |  |
| 　　１　過年度損益修正損前事業年度の次期繰越正味財産額と一致 |  | ××× |  |
| 　　　　・・・・・・・・ |  | ××× |  |
| 　　経常外費用計 |  |  | ××× |
| 　　　　当期正味財産増減額 |  |  | ××× |
| 　　　　前期繰越正味財産額 |  |  | ××× |
| 　　　　次期繰越正味財産額 |  |  | ××× |

　　※　当該年度はその他の事業の実施していません。

|  |
| --- |
| （注）その他の事業を定款で掲げていない法人は、この脚注は不要。 |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （注）　重要性が高いと判断される使途等が制約された寄附金等（対象事業等が定められた補助金等を含む）を受け入れた場合は、「一般正味財産増減の部」と「指定正味財産増減の部」に区分して表示することが望ましい。表示例は以下のとおり。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| (一般正味財産増減の部) | 使途等の制約が解除されたことによる指定正味財産から一般正味財産への振替額 |  |  |
| Ⅰ　経常収益 |  |  |  |
| 　１　受取寄附金 |  |  |  |
| 　　　受取寄附金振替額 | ××× |  |  |
| 　　　・・・・・・・・ |  |  |  |
| Ⅱ　経常費用 |  |  |  |
| 　　援助用消耗品費 | ××× |  |  |
| 　　・・・・・・・・・ |  |  |  |
| （指定正味財産増減の部） |  | 「受取寄附金振替額」と同額をマイナス計上 |  |
| 　受取寄附金 | ○○○ |  |  |
| 　　　　・・・・・・・ |  |  |  |
| 　一般正味財産への振替額 | △××× |  |  |

 |

　（備考）

　　１　用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

　　２　定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合で、その他の事業を実施していないときは、上記の脚注のように記載し、その他の事業を行う場合は、７頁～８頁の書式例のように活動計算書を作成する。

　　３　「事業費」とは、法人の事業の実施のために直接要する費用で、管理費以外のものをいい、当該事業の実施のために直接要する人件費、交通費等の費用が含まれる。）等が挙げられる。なお、事業報告書に記載している内容との整合性を図る。

４　特に、費用規模（事業費＋管理費）でみた特定非営利活動に係る事業の割合、総費用に占める管理費の割合等は、特定非営利活動を行うことを主たる目的とすること、営利を目的としないものであることという法定要件への適合性の判断材料となる。この点については、「北海道におけるＮＰＯ法の運用方針」（122頁）を参照のこと。

５　「前期繰越正味財産額」は、前々事業年度末の「次期繰越正味財産額」と一致する。

６　「次期繰越正味財産額」は、貸借対照表の「正味財産合計」と一致する。

**（書式例）**

　**２　定款にその他の事業を掲げている場合**

○○年度　活動計算書

前事業年度の自至年月日を記載する

　　年　　月　　日から　　年　　月　　日まで

特定非営利活動法人○○○○

（単位：円）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 科目 | 特定非営利活動に係る事業 | その他の事業 | 合計 |
| Ⅰ　経常収益 |  |  |  |
| 　　１　受取会費 |  |  | ××× |
| 　　　　正会員受取会費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　賛助会員受取会費施設等評価費用も併せて計上（計上は法人の任意） | 　　　×××××× |  | ××× |
| 　　　　・・・・・・・・ |  |  |
| 　　２　受取寄附金 |  |  |  |
| 　　　　受取寄附金 | ××× |  | ××× |
| 　　　　施設等受入評価益 | ××× |  | ××× |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  | ××× |
| 　　３　受取助成金等 |  |  |  |
| 　　　　受取民間助成金 | ××× |  | ××× |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  | ××× |
| 　　４　事業収益 |  |  |  |
| 　　　　○○事業収益 | ××× |  | ××× |
| 　　　　△△事業収益 |  | ××× | ××× |
| 　　５　その他収益 |  |  |  |
| 　　　　受取利息 | ××× |  | ××× |
| 　　　　雑収益人件費とその他経費に分けた上で、支出の形態別に内訳を記載 | ××× |  | ××× |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  | ××× |
| 　　経常収益計 | ××× | ××× | ××× |
| Ⅱ　経常費用 |  |  |  |
| 　　１　事業費 |  |  |  |
| 　　　 (1) 人件費 |  |  |  |
| 　　　　　　給料手当 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　　　法定福利費 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　　　退職給付費用 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　福利厚生費 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　　　・・・・・・・・施設等受入評価益も併せて計上（計上は法人の任意） | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　人件費計 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　(2) その他経費 |  |  |  |
| 　　　　　　会議費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　旅費交通費 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　　　施設等評価費用 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　減価償却費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　支払利息 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　・・・・・・・・ | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　　　その他経費計 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　事業費計人件費とその他経費に分けた上で、支出の形態別に内訳を記載 | ××× | ××× | ××× |
| 　　２　管理費 |  |  |  |
| 　　　 (1) 人件費 |  |  |  |
| 　　　　　　役員報酬 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　給料手当 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　法定福利費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　退職給付費用 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　福利厚生費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　・・・・・・・・ | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　人件費計 | ××× |  | ××× |
| 　　　　(2) その他経費 |  |  |  |
| 　　　　　　会議費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　旅費交通費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　減価償却費 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　支払利息 | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　・・・・・・・・ | ××× |  | ××× |
| 　　　　　　その他経費計 | ××× |  | ××× |
| 　　　　管理費計 | ××× |  | ××× |
| 　　経常費用計 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　当期経常増減額 | ××× | ××× | ××× |
| Ⅲ　経常外収益 |  |  |  |
| 　　１　固定資産売却益 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　経常外収益計 | ××× |  | ××× |
| Ⅳ　経常外費用 |  |  |  |
| 　　１　過年度損益修正損その他の事業で得た利益の振替額 | ××× |  | ××× |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  | ××× |
| 　　経常外費用計 | ××× |  | ××× |
| 　　　　経理区分振替額 | ××× | △××× | ××× |
| 　　　　当期正味財産増減額 | ××× | ××× | ××× |
| 　　　　前期繰越正味財産額 |  |  | ××× |
| 　　　　次期繰越正味財産額 |  |  | ××× |

　（備考）

　　１　用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

　　２　定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合で、その他の事業を実施していないときは、「その他の事業」欄の数字をすべてゼロとするか、５頁～６頁の書式例を使い、脚注に「※今年度はその他の事業を実施していません。」と明記する。

　　３　「事業費」とは、法人の事業の実施のために直接要する費用で、管理費以外のものをいい、当該事業の実施のために直接要する人件費、交通費等の費用が含まれる。）等が挙げられる。なお、事業報告書に記載している内容との整合性を図る。

　　４　特に、費用規模（事業費＋管理費）でみた特定非営利活動に係る事業の割合、総費用に占める管理費の割合等は、特定非営利活動を行うことを主たる目的とすること、営利を目的としないものであることという法定要件への適合性の判断材料となる。この点については、「北海道におけるＮＰＯ法の運用方針」（109頁）を参照のこと。

　　５　「経理区分振替額」には、その他の事業で得た利益の振替額を記入する。

６　「前期繰越正味財産額」は、前々事業年度末の「次期繰越正味財産額」と一致する。

７　「次期繰越正味財産額」は、貸借対照表の「正味財産合計」と一致する。

**（書式例）**

○○年度　貸借対照表

期末日を記載する

　　年　　月　　日現在

特定非営利活動法人　○○○○

|  |  |
| --- | --- |
| 科　目 | 金　額　（単位：円） |
| Ⅰ　資産の部 |  |  |  |
|  | １　流動資産 |  |  |  |
|  |  | 現金預金未収金・・・・・・ | **×××****×××****×××** |  |  |
|  | 　　流動資産合計 |  | **×××** |  |
|  | ２　固定資産 |  |  |  |
|  |  | (1) 有形固定資産車両運搬具　什器備品・・・・・・ | **×××** **×××****×××** |  |  |
|  |  | 　　有形固定資産計 | **×××** |  |  |
|  |  | (2) 無形固定資産　　ソフトウェア　　・・・・・・ | **×××****×××** |  |  |
|  |  | 　　無形固定資産計 | **×××** |  |  |
|  |  | (3) 投資その他の資産　　敷金　　○○特定資産　　・・・・・・ | **×××****×××****×××** |  |  |
|  |  | 　　投資その他の資産計 | **×××** |  |  |
|  | 固定資産合計 |  | **×××** |  |
| 資産合計 (A) |  |  | **×××** |
| Ⅱ　負債の部 |  |  |  |
|  | １　流動負債 |  |  |  |
|  |  | 未払金前受民間助成金・・・・・・ | **×××****×××****×××** |  |  |
|  | 流動負債合計 |  | **×××** |  |
|  | ２　固定負債 |  |  |  |
|  |  | 長期借入金退職給付引当金・・・・・・ | **×××****×××****×××** |  |  |
|  | 固定負債合計 |  | **×××** |  |
| 負債合計 (B) |  |  | **×××** |
| Ⅲ　正味財産の部 |  |  |  |
| 前期繰越正味財産 |  | **×××** |  |
| 当期正味財産増減額 |  | **×××** |  |
| 正味財産合計 (C) |  |  | **×××** |
| 負債及び正味財産合計 (B)＋(C)＝(A)  |  |  | **×××** |

（備考）

１　用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

２　前事業年度の末日現在における資産、負債及び財産を記載する。

３　「前期繰越正味財産額」は前々事業年度末の「正味財産合計」と一致する。

４　「正味財産合計」は、活動計算書の「次期正味財産正味財産額」と一致する。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| （注）　重要性が高いと判断される使途等が制約された寄附金等（対象事業等が定められた補助金等を含む）を受け入れた場合は、「Ⅲ　正味財産の部」を「指定正味財産」と「一般正味財産」に区分して表示することが望ましい。表示例は以下のとおり。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| Ⅰ　資産の部 |  |  |  |
| 　１　流動資産 |  |  |  |
| 　　　・・・・・・・・ |  |  |  |
| Ⅱ　負債の部 |  | 使途等が制約された寄附金等の残高を記載 |  |
| 　　・・・・・・・・・ |  |  |  |
| Ⅲ　正味財産の部 |  |  |  |
| 　１　指定正味財産 |  |  |  |
| 　指定正味財産合計 | **×××** |  |  |
| 　２　一般正味財産 |  |  |  |
| 　一般正味財産合計 | **○○○** |  |  |

 |

**（書式例）**

期末日を記載する

○○年度　財産目録

　　年　　月　　日現在

特定非営利活動法人○○○○

|  |  |
| --- | --- |
| 科目 | 金額（単位：円） |
| Ⅰ　資産の部 |  |  |  |
| 　１　流動資産口座番号の記載は不要 |  |  |  |
| 　　　現金預金 |  |  |  |
| 　　　　手元現金 | ××× |  |  |
| 　　　　××銀行普通預金 | ××× |  |  |
| 　　　未収金 |  |  |  |
| 　　　　××事業未収金 | ××× |  |  |
| 　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　流動資産合計 |  | ××× |  |
| 　２　固定資産 |  |  |  |
| 　　(1) 有形固定資産 |  |  |  |
| 　　　　什器備品 |  |  |  |
| 　　　　　パソコン１台 | ××× | 金銭評価ができない資産については「評価せず」として記載できる |  |
| 　　　　　応接セット | ××× |  |  |
| 　　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　　歴史的資料 | 評価せず |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　有形固定資産計 | ××× |  |  |
| 　　(2) 無形固定資産 |  |  |  |
| 　　　　ソフトウェア |  |  |  |
| 　　　　　財務ソフト | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　無形固定資産計 | ××× |  |  |
| 　　(3) 投資その他の資産 |  |  |  |
| 　　　　敷金 | ××× |  |  |
| 　　　　○○特定資産 |  |  |  |
| 　　　　××銀行定期預金 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　　投資その他の資産計 | ××× |  |  |
| 　　固定資産合計 |  | ××× |  |
| 　資産合計 |  |  | ××× |
| Ⅱ　負債の部 |  |  |  |
| 　１　流動負債 |  |  |  |
| 　　　未払金 |  |  |  |
| 　　　　事務用品購入代 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　預り金 |  |  |  |
| 　　　　源泉所得税預り金 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　流動負債合計 |  | ××× |  |
| 　２　固定負債 |  |  |  |
| 　　　長期借入金 | ××× |  |  |
| 　　　　××銀行借入金 | ××× |  |  |
| 　　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　・・・・・・・・ | ××× |  |  |
| 　　　固定負債合計 |  | ××× |  |
| 　負債合計 |  |  | ××× |
| 　正味財産 |  |  | ××× |

　　（備考）

　　　１　用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

**活動計算書（活動予算書）の科目例**

|  |
| --- |
| 以下に示すものは、一般によく使われると思われる科目のうち、主なものを例示したものです。したがって、該当がない場合は使用する必要はありませんし、利用者の理解に支障がなければまとめても構いません。また、適宜の科目を追加することができます。 |

|  |  |
| --- | --- |
| **勘定科目** | **科目の説明** |
| Ⅰ　経常収益 |  |
| 　　１　受取会費 |  |
| 　　　　正会員受取会費 | 確実に入金されることが明らかな場合を除き、実際に入金したときに計上する。 |
| 　　　　賛助会員受取会費 | 対価性が認められず明らかに贈与と認められるものや、それを含む場合があり、ＰＳＴの判定時に留意が必要。 |
| 　　２　受取寄附金 |  |
| 　　　　受取寄附金 |  |
| 　　　　資産受贈益 | 無償又は著しく低い価格で現物資産の提供を受けた場合の時価による評価差益。 |
| 　　　　施設等受入評価益 | 受け入れた無償又は著しく低い価格で施設の提供等の物的サービスを、合理的に算定し外部資料等によって客観的に把握でき、施設等評価費用と併せて計上する方法を選択した場合に計上する。 |
| 　　　　ボランティア受入評価益 | 提供を受けたボランティアからの役務の金額を、合理的に算定し外部資料等によって客観的に把握でき、ボランティア評価費用と併せて計上する方法を選択した場合に計上する。 |
| 　　３　受入助成金等 |  |
| 　　　　受入助成金 | 補助金や助成金の交付者の区分によって受取民間助成金、受取国庫補助金等に区分することができる。 |
| 　　　　受入補助金 |
| 　　４　事業収益 | 事業の種類ごとに区分して表示することができる。 |
| 　　　　売上高 | 販売用棚卸資産の販売やサービス（役務）の提供などにより得た収益。 |
| 　　　　○○利用会員受取会費 | サービス利用の対価としての性格をもつ会費。 |
| 　　５　その他収益 |  |
| 　　　　受取利息 |  |
| 　　　　為替差益 | 為替換算による差益。なお為替差損がある場合は相殺して表示する。 |
| 　　　　雑収益 | いずれの科目にも該当しない、又は独立の科目とするほど量的、質的に重要でない収益。この科目の金額が他と比して過大になることは望ましくない。 |
| Ⅱ　経常費用 |  |
| 　　１　事業費 |  |
| 　　(1) 人件費 |  |
| 　　　　給料手当 |  |
| 　　　　臨時雇賃金 |  |
| 　　　　ボランティア評価費用 | ボランティアの費用相当額。ボランティア受入評価益と併せて計上する。 |
| 　　　　法定福利費 |  |
| 　　　　退職給付費用 | 退職給付見込額のうち当期に発生した費用。会計基準変更時差異の処理として、定額法により費用処理する場合、一定年数（15年以内）で除した額を加算する。少額を一括して処理する場合も含まれる。 |
| 　　　　通勤費 | 給料手当、福利厚生費に含める場合もある。 |
| 　　　　福利厚生費 |  |
| 　　(2) その他経費 |  |
| 　　　　売上原価 | 販売用棚卸資産を販売したときの原価。期首の棚卸高に当期の仕入高を加え期末の棚卸高を控除した額。 |
| 　　　　業務委託費 |  |
| 　　　　諸謝金 | 講師等に対する謝礼金。 |
| 　　　　印刷製本費 |  |
| 　　　　会議費 |  |
| 　　　　旅費交通費 |  |
| 　　　　車両費 | 車両運搬具に関する費用をまとめる場合。内容により他の科目に表示することもできる。 |
| 　　　　通信運搬費 | 電話代や郵送物の送料等。 |
| 　　　　消耗品費 |  |
| 　　　　修繕費 |  |
| 　　　　水道光熱費 | 電気代、ガス代、水道代等。 |
| 　　　　地代家賃 | 事務所の家賃や駐車場代等。 |
| 　　　　賃借料 | 少額資産に該当する事務機器のリース料等。不動産の使用料をここに入れることも可能。 |
| 　　　　施設等評価費用 | 無償でサービスの提供を受けた場合の費用相当額。施設等受入評価益と併せて計上する。 |
| 　　　　減価償却費 |  |
| 　　　　保険料 |  |
| 　　　　諸会費 |  |
| 　　　　租税公課 | 収益事業に対する法人税等は租税公課とは別に表示することが望ましい。なお、法人税等を別表示する際には、活動計算書の末尾に表示し、税引前当期正味財産増減額から法人税等を差し引いて当期正味財産増減額を表示することが望ましい。 |
| 　　　　研修費 |  |
| 　　　　支払手数料 |  |
| 支払助成金 |  |
| 　　　　支払寄附金 |  |
| 　　　　支払利息 | 金融機関等からの借入れに係る利子・利息。 |
| 　　　　為替差損 | 為替換算による差損。なお、為替差益がある場合は相殺して表示する。 |
| 　　　　雑費 | いずれの科目にも該当しない、又は独立の科目とするほど量的、質的に重要でない費用。この科目の金額が他と比して過大になることは望ましくない。 |
| 　　２　管理費 |  |
| 　　(1) 人件費 |  |
| 　　　　役員報酬 |  |
| 　　　　給料手当 |  |
| 　　　　法定福利費 |  |
| 　　　　退職給付費用 | 退職給付見込額のうち当期に発生した費用。会計基準変更時差異の処理として、定額法により費用処理する場合、一定年数（15年以内）で除した額を加算する。少額を一括して処理する場合も含まれる。 |
| 　　　　通勤費 | 給料手当、福利厚生費に含める場合もある。 |
| 　　　　福利厚生費 |  |
| 　　(2) その他経費 |  |
| 　　　　印刷製本費 |  |
| 　　　　会議費 |  |
| 　　　　旅費交通費 |  |
| 　　　　車両費 | 車両運搬具に関する費用をまとめる場合。内容により他の科目に表示することもできる。 |
| 　　　　通信運搬費 | 電話代や郵送物の送料等。 |
| 　　　　消耗品費 |  |
| 　　　　修繕費 |  |
| 　　　　水道光熱費 | 電気代、ガス代、水道代等。 |
| 　　　　地代家賃 | 事務所の家賃や駐車場代等。 |
| 　　　　賃借料 | 少額資産に該当する事務機器のリース料等。不動産の使用料をここに入れることも可能。 |
| 　　　　減価償却費 |  |
| 　　　　保険料 |  |
| 　　　　諸会費 |  |
| 　　　　租税公課 | 収益事業に対する法人税等は租税公課とは別に表示することが望ましい。なお、法人税等を別表示する際には、活動計算書の末尾に表示し、税引前当期正味財産増減額から法人税等を差し引いて当期正味財産増減額を表示することが望ましい。 |
| 　　　　支払手数料 |  |
| 　　　　支払利息 | 金融機関等からの借入れに係る利子・利息。 |
| 　　　　雑費 | いずれの科目にも該当しない、又は独立の科目とするほど量的、質的に重要でない費用。この科目の金額が他と比して過大になることは望ましくない。 |
| Ⅲ　経常外収益 |  |
| 　　　固定資産売却益 |  |
| 　　　過年度損益修正益 | 過年度に関わる項目を当期に一括して修正処理をした場合。 |
| Ⅳ　経常外費用 |  |
| 　　　固定資産除・売却損 |  |
| 　　　災害損失 |  |
| 　　　過年度損益修正損 | 過年度に関わる項目を当期に一括して修正処理をした場合。会計基準を変更する前事業年度以前に減価償却を行っていない資産を一括して修正処理する場合などに用いる。減価償却費だけの場合は、「過年度減価償却費」の科目を使うこともできる。 |
| Ⅴ　経理区分振替額 |  |
| 　　　経理区分振替額 | その他の事業がある場合の事業間振替額。 |

|  |
| --- |
| （注）　重要性が高いと判断される使途等が制約された寄附金等（対象事業等が定められた補助金等を含む）を受け入　　　れた場合は、「一般正味財産増減の部」と「指定正味財産増減の部」に区分して表示し、当該寄附金等を後者に　　　計上することが望ましい。当該寄附金（補助金・助成金）の使途等が解除された場合等には、「一般正味財産増　　　減の部」に　「受取寄附金（補助金・助成金）振替額」を、「指定正味財産増減の部」に「一般正味財産への振　　　替額（△）」を勘定科目として記載する（表示例は6頁の様式例参照）**。** |

**貸借対照表の科目例**

|  |
| --- |
| 以下に示すものは、一般によく使われると思われる科目のうち、主なものを例示したものです。したがって、該当がない場合は使用する必要はありませんし、利用者の理解に支障がなければまとめても構いません。また、適宜の科目を追加することができます。 |

|  |  |
| --- | --- |
| **勘定科目** | **科目の説明** |
| Ⅰ　資産の部 |  |
| 　　１　流動資産 |  |
| 　　　　現金預金 |  |
| 　　　　未収金 | 商品の販売によるものも含む。 |
| 　　　　棚卸資産 | 商品、貯蔵品等として表示することもできる。 |
| 　　　　短期貸付金 | 返済期限が事業年度末から1年以内の貸付金。 |
| 　　　　前払金 |  |
| 　　　　仮払金 |  |
| 　　　　立替金 |  |
| 　　　　○○特定資産 | 目的が特定されている資産で流動資産に属するもの。目的を明示する。 |
| 　　　　貸倒引当金（△） |  |
| 　　２　固定資産 |  |
| 　　 　 (1) 有形固定資産 | 土地、建物等実体があり、長期にわたり事業用に使用する目的で保有する資産。 |
| 　　　　　　建物 | 建物付属設備を含む。 |
| 　　　　　　構築物 |  |
| 　　　　　　車両運搬具 |  |
| 　　　　　　什器備品 |  |
| 　　　　　　土地 |  |
| 　　　　　　建設仮勘定 | 工事の前払金や手付金等、建設中又は制作中の固定資産。 |
| 　　　　(2) 無形固定資産 | 具体的な存在形態を持たないが、事業活動において長期間にわたり利用される資産。 |
| 　　　　　　ソフトウェア | 購入あるいは制作したソフトの原価。 |
| 　　　　(3) 投資その他の資産 | 余裕資金の運用のための長期的外部投資や、貸付金等長期債権から構成される資産。 |
| 　　　　　　投資有価証券 | 長期に保有する有価証券。 |
| 　　　　　　敷金 | 返還されない部分は含まない。 |
| 　　　　　　差入保証金 | 返還されない部分は含まない。 |
| 　　　　　　長期貸付金 | 返済期限が事業年度末から1年を超える貸付金。 |
| 　　　　　　長期前払費用 |  |
| 　　　　　　○○特定資産 | 目的が特定されている資産で固定資産に属するもの。目的を明示する。 |
| Ⅱ　負債の部 |  |
| 　　１　流動負債 |  |
| 　　　　短期借入金 | 返済期限が事業年度末から１年以内の借入金。 |
| 　　　　未払金 | 商品の仕入れによるものも含む。 |
| 　　　　前受金 |  |
| 　　　　仮受金 |  |
| 　　　　預り金 |  |
| 　　２　固定負債 |  |
| 　　　　長期借入金 | 返済期限が事業年度末から１年を超える借入金。 |
| 　　　　退職給付引当金 | 退職給付見込額の期末残高。 |
| Ⅲ　正味財産の部 |  |
| 　　１　正味財産 |  |
| 　　　　前期繰越正味財産 |  |
| 　　　　当期正味財産増減額 |  |

|  |
| --- |
| （注）　重要性が高いと判断される使途等が制約された寄附金等（対象事業等が定められた補助金等を含む）を受け入　　　れた場合は、「Ⅲ　正味財産の部」を「指定正味財産」と「一般正味財産」とに区分してそれぞれ勘定科目として　　　表示し、当該寄附金等を前者に計上することが望ましい。（表示例は10頁の様式例参照）**。** |

**（書式例）**

前事業年度の自至年月日を記載する

前事業年度の年間役員名簿

年　　月　　日から　　年　　月　　日まで

特定非営利活動法人　○○○○

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 役職名 | 氏　名 | 住所又は居所 | 前事業年度の就任期間 | 報酬を受けた期　間 |
| 理事理事理事・・・監事・・・ | ***○○　○○******○○　○○******○○　○○******・・・******○○　○○******・・・*** | ***札幌市○○区○条○丁目○番○号******札幌市○○区○条○丁目○番○号******札幌市○○区○条○丁目○番○号******・・・******札幌市○○区○条○丁目○番○号******・・・******↑******３部のうち２部は******住所又は居所を除いた******もの（空欄又は黒塗り）******としてください。*** | ***○年○月○日******～○年○月○日******○年○月○日******～○年○月○日******○年○月○日******～○年○月○日******・・・******・・・******○年○月○日******～○年○月○日******・・・******・・・*** | ***○年○月○日******～○年○月○日******無報酬******無報酬******・・・******・・・******無報酬******・・・******・・・*** |

前事業年度期間中の該当する期間を記載する。

（備考）

１　用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

２　「役職名」の欄には、理事、監事の別を記載する。

３　「住所又は居所」の欄には、特定非営利活動促進法施行条例第２条第２項に掲げる書面（住民票等）によって証された住所又は居所を記載する。

４　「就任期間」の欄には、左に記載された役員全員について記載し、「報酬を受けた期間」の欄については、報酬を受けたことがある役員のみについて記載する。

５　「就任期間」「報酬を受けた期間」については、前事業年度期間中の該当する期間を記載する。

**（書式例）**

期末日を記載する

前事業年度の社員のうち１０人以上の者の名簿

年　　月　　日現在

特定非営利活動法人　○○○○

|  |  |
| --- | --- |
| 氏　名 | 住　所　又　は　居　所 |
| ***○○　○○******○○　○○******○○　○○******○○　○○******○○　○○******○○　○○******○○　○○******○○　○○******○○　○○******○○　○○*****・・・・・****・・・・・** | ***札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号******札幌市○○区○○条○○丁目○○番○○号*****・・・・・・・・**・・・・・・・・**３部のうち２部は、住所****又は居所の記載を除いた****もの（空欄又は黒塗り）****としてください。** |

（備考）

１　用紙の大きさは、日本産業規格Ａ列４番とする。

２　前事業年度の末日現在における社員のうち１０人以上の者の氏名及び住所又は居所を記載する。